

青森市埋蔵文化財調査報告書 第73集

新^{しん}町^{まち}野^の遺跡

発掘調査概報



平成15年度

青森市教育委員会

序

青森市教育委員会では、今年度、東北新幹線建設工事に係る新町野遺跡の発掘調査を実施いたしました。

調査の結果、縄文時代と平安時代の複合遺跡であることが判明し、縄文時代の土坑、溝状土坑、埋設土器遺構や平安時代の竪穴式住居跡、土坑、円形周溝などの遺構や縄文土器や石器、平安時代の土師器や須恵器などの遺物を確認しております。

本書はこれら調査成果について、写真図版等を多用した発掘調査概報としてまとめたものであります。研究者はもとより市民の皆様にとりまして、本書が埋蔵文化財の保護・活用、歴史学習等に、いささかでも役立つことができれば幸いと存じます。

調査の終始にわたる関係機関及び関係者各位のご指導、並びに地元町会からのご理解、ご協力に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成 16 年 3 月

青森市教育委員会

教育長 角 田 詮二郎

例 言

1. 本書は、青森市教育委員会が平成 15 年度に実施した東北新幹線建設工事に係る新町野遺跡発掘調査の概要報告書である。
2. 新町野遺跡発掘調査は、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構（旧日本鉄道建設公団）の委託を受け実施した。
3. 新町野遺跡の遺跡番号は、01161 である。
4. 発掘調査報告書は、発掘調査が調査対象区域全体を完了するまで引き続き実施する予定であることから、調査完了後に刊行する予定である。
5. 本書の執筆並びに編集は、青森市教育委員会が行ない、小野貴之が担当した。
6. 発掘調査の実施にあたって次の機関からご指導・ご協力をいただいた。記して謝意を表する。

青森県教育庁文化財保護課・青森県埋蔵文化財調査センター・南部二区連合町会

目 次

序	
例言	
目次	
はじめに.....	1
新町野遺跡と周辺の遺跡.....	2
今年度の調査から.....	3
平安時代の様相.....	6
縄文時代の様相.....	9
まとめ.....	12

はじめに

平成 14 年 12 月 1 日、東北新幹線の八戸駅が開業しました。この結果、東北新幹線は首都圏と 3 時間弱で結ばれ、これまで以上に青森市民はもとより、多くの人々により身近で便利なものとなっており、新幹線八戸駅利用者は開業後 1 年間で 418 万人を数えています。

しかし、県庁所在地である青森市と八戸市間は、これまでと同様、在来線のままとされており、青森～八戸駅間は約 1 時間を要しています。

独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構（旧日本鉄道建設公団、以下鉄道・運輸機構）では、東北新幹線の残り青森～八戸間について早期完成に向けて工事を進めています。しかし、工事予定地内には 30 箇所以上の遺跡が存在しており、これらの遺跡の対応については、鉄道・運輸機構と青森県文化財保護課、関係各機関で協議した結果、一部の遺跡では記録保存を前提とした発掘調査を実施することとなりました。青森市内にも発掘調査が必要な遺跡は、新町野遺跡をはじめ、朝日山(2)遺跡、合子沢松森(2)遺跡、三内遺跡、三内沢部(3)遺跡、新田(1)遺跡など多数あり、そのうちいくつかの遺跡については、遺跡所在地である青森市教育委員会に調査が依頼されました。

当委員会では、埋蔵文化財保護行政と開発事業との円滑な調整を図るため、調査を受託することとし、青森市新町野字菅谷他に所在する本遺跡の発掘調査を 6 月 25 日から 11 月 21 日までの期間実施しました。



調査前風景

新町野遺跡と周辺の遺跡

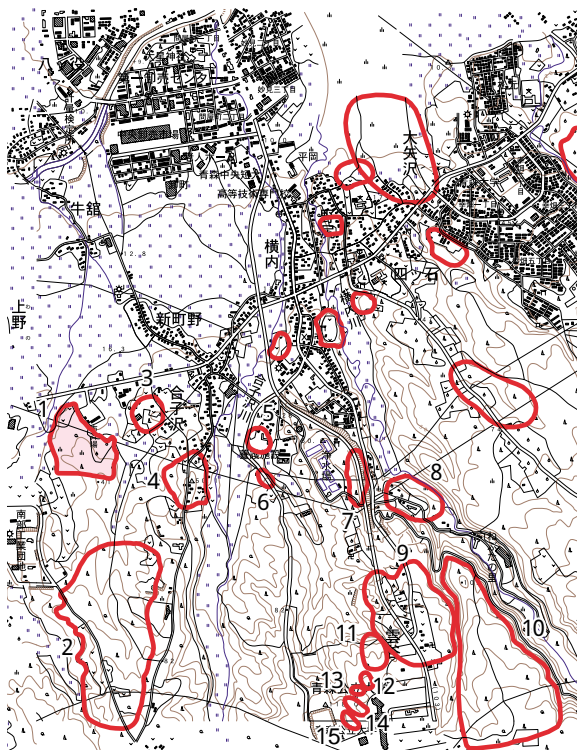
本遺跡は、青森市の南部、青森市大字新町野字菅谷付近にあります。今年度の調査区は、青森市斎場の南側に所在しています。青森市南東～南部に広がっている八甲田山のすそのにあたる火山性台地の牛館川と合子沢川に挟まれた、南から北側へと下る丘陵、標高 20 m～ 50 m に立地しています。

本遺跡は、これまでも発掘調査が実施されています。近年では、中核工業団地造成、防災調整池造成、市道建設工事等に先立つ発掘調査が青森市教育委員会や青森県埋蔵文化財調査センターにより実施されており、縄文時代の竪穴式住居跡や土坑、平安時代の竪穴式住居跡や円形周溝などが見つかっています。

青森市には多数の遺跡があり、その数は平成 16 年 3 月 31 日現在 30 2 個所にのぼります。本遺跡の周囲にも遺跡が見つかっています。付近の遺跡の多くは、本遺跡と同様に八甲田山のすそのにあたる丘陵の末端部に立地しており、それらの中には、発掘調査が実施された遺跡もあります。

本遺跡の南側には中核工業団地造成に先立つ発掘調査で、平安時代の集落跡が確認された野木遺跡があります。多数の竪穴式住居跡をはじめ鉄生産関連の遺構や、畠の跡と思われる畝状遺構、トイレ状遺構なども見つかっています。本遺跡から東側、標高 30 m ほどの地点には横内(1)遺跡が所在しています。発掘調査で縄文時代前期の集落跡が確認されたほか縄文時代早期の土器も見つかっています。また南側標高 100 m ほどの地点には国道 103 号バイパス改良工事業に先立つ発掘調査が行われた桜峯(1)遺跡が所在しており、発掘調査では縄文時代前期末葉から中期初頭の集落跡などが確認されています。さらに南側青森公立大学付近では雲谷山吹(4)～(7)遺跡が所在しており、発掘調査によって平安時代の集落跡が確認されています。

周辺の遺跡図



周辺の遺跡図

番号	遺跡名	時代
1	新町野	縄文(前、中)、平安
2	野木(1)	縄文(早～晩)、平安
3	合子沢松森(1)	縄文
4	合子沢松森(2)	平安
5	横内(1)	縄文(早、前)
6	横内(2)	縄文(前、中)、平安
7	桜峯(2)	縄文(前～晩)
8	横内猿沢(1)	平安
9	桜峯(1)	縄文(前～晩)、平安
10	鏡山	縄文(前～後)
11	雲谷山吹(3)	縄文(前、中)
12	雲谷山吹(4)	縄文(中、晩)
13	雲谷山吹(5)	縄文(中～晩)、平安
14	雲谷山吹(6)	縄文(前～後)、平安
15	雲谷山吹(7)	縄文(前～後)、平安

周辺の遺跡表

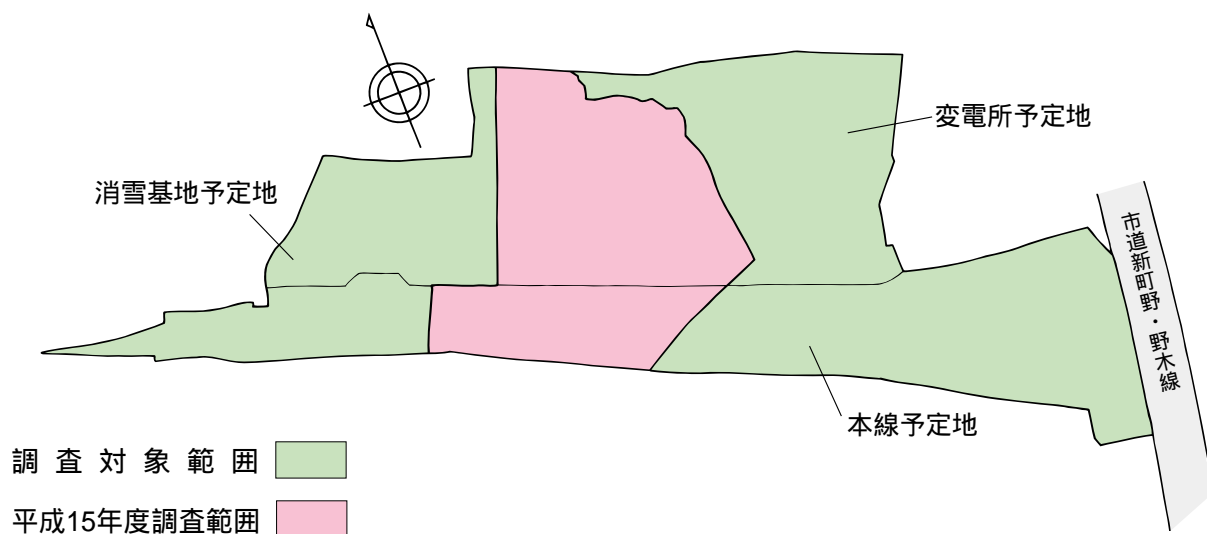
今年度の調査から

本遺跡の調査区はおおむね東から西に約800mにわたる細長い形をしています。一部、本線以外の消雪基地予定地や変電所予定地については、北側に幅が広がっています。

調査区の地形は、全体に北に向かってなだらかに下る地形となっています。

調査前は、原野となっており、調査区域全体に渡って、重機により地山面まで削られた上、攪乱された土が盛られていました。部分的には、地表から4～5mの深さまで削平が及んでいた箇所もあります。攪乱された土の中の遺物が一部、遺構内出土遺物と接合したので、遺跡を削った土がそのまま盛られているようです。検出した竪穴式住居跡の覆土なども重機により取られた痕跡が残っていたことから、過去に黒土の採取が行われたものと思われます。削平の影響もあると思われますが、調査区は地形的にも丘陵の頂部にあたり、一部を除き平坦な地形となっています。

調査対象範囲と周辺の地形



削平の様子



調査区西側の様子

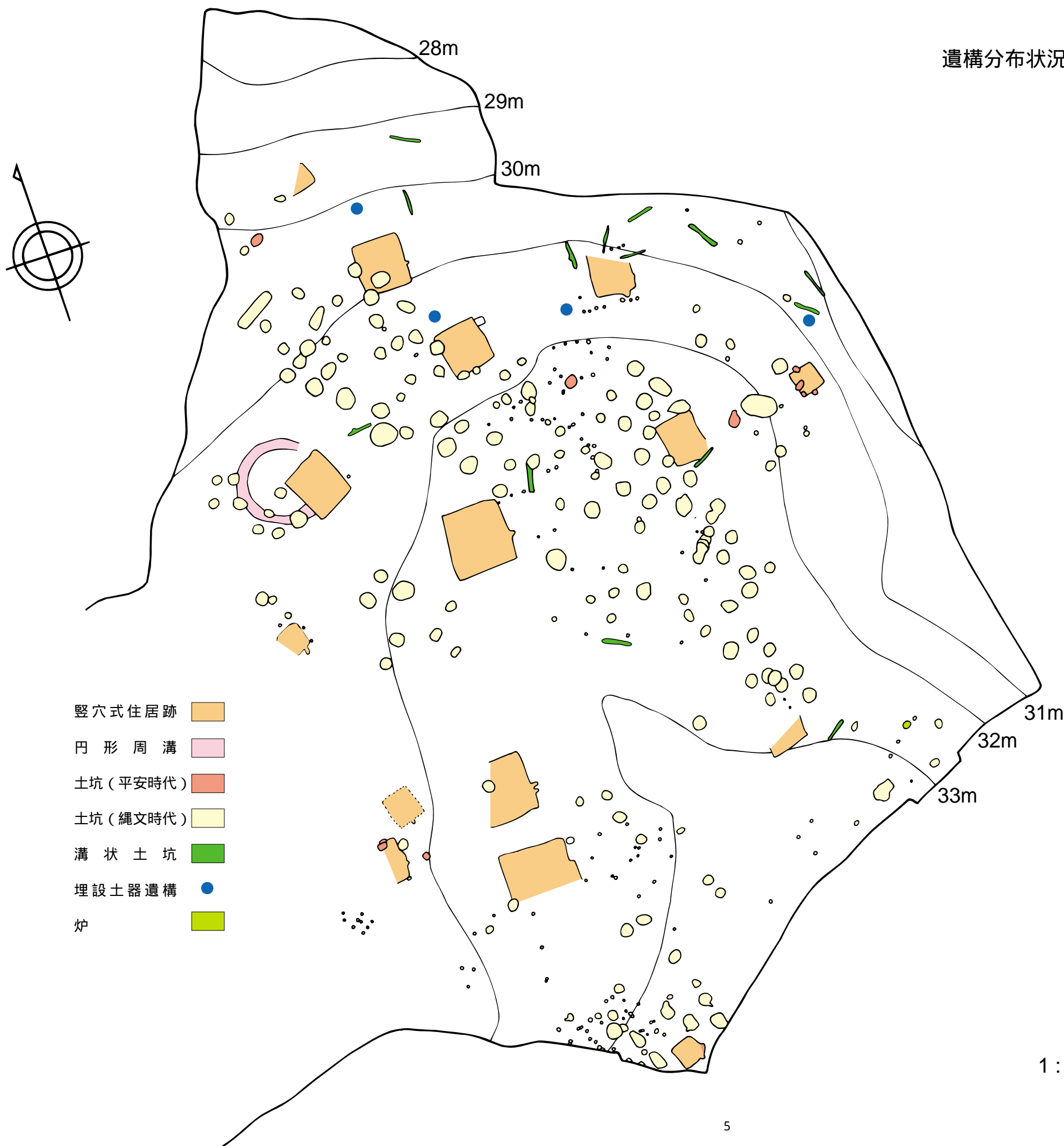
遺構分布状況

今年度の調査で見つかった遺構は、竪穴式住居跡 15 軒、土坑 192 基、埋設土器遺構 4 基、溝状遺構 14 基、屋外炉 1 基、円形周溝 1 基、柱穴状ピット 191 基です。

本遺跡からは大きく二つの時期、縄文時代前期と平安時代の遺構や遺物が見つかっています。

縄文時代では、土坑 181 基、埋設土器遺構 4 基、溝状土坑 14 基、屋外炉 1 基などがみつかっています。土坑は、調査区の南東から北西にかけて、密度の違いがありますが列を成すようにまとまってみつかっています。埋設土器遺構は、調査区北側の斜面が下り始めるあたりで見つかっています。溝状土坑も、14 基中 9 基が北側斜面で見つかっています。屋外炉は、調査区南側の端で見つかっています。

平安時代では、竪穴式住居跡 15 軒、円形周溝 1 基、土坑 11 基などがみつかっています。竪穴式住居跡は、調査区全体に渡って、やや散発的にみつかっています。土坑は、竪穴式住居跡のすぐ傍で見つかったものと離れた地点で見つかったものがあります。円形周溝は、調査区の西端で 1 基のみが見つかっています。あるいは、今後西側の調査で他にも見つかるのかも知れません。



作業風景



作業風景

平安時代の様相

竪穴式住居跡

平安時代の竪穴式住居跡は、15軒見つっています。調査区の中でこれらの住居跡は、密集したりはせず、距離を置いたように分布しています。

平面形は方形を呈しており、煮炊きを行うかまどが設けられています。住居内で煮炊きをして、その煙は屋外に出る構造となっています。

住居跡のうちかまどの位置が分からないしは推定できるものの多くは、東壁の部分にかまどを設けています。また、2軒については、南壁の部分にかまどを設けているようです。この違いは、これら住居跡が設けられた時期の差によるものかもしれません。かまどの他に住居跡では、建物の柱を立てたと思われる柱穴や壁を巡る壁溝が見つっています。また、一部の住居跡には、方形の住居跡の一部が四角く張り出した構造になっているものも見られます。道具の置場などとして利用していたなどが考えられます。

床には、土が赤く焼けた痕跡を残すものがしばしば見られます。また、建物の部材として使われていたと思われる木材が炭化した状況で見つっています。火を受けて焼けた住居と思われませんが、自然災害や、過失による火事が起こったものか、意図的に燃やしたものは、今後の検証が必要です。

これらの、炭化材のうち板状のものは、壁に立てられていたり、床に敷かれていたものと思われる。また、壁際では、短い棒状の炭化材が並んで立った状態で見つっています。これらは、壁の板を支えていたものと思われる。



竪穴式住居跡



かまど



炭化材出土状況



壁際の炭化材

土坑

平安時代の土坑は、10基ほど見つかっています。竪穴式住居跡のすぐ傍にあるものと、住居跡とは少し離れた位置にあるものがあります。

住居跡のすぐ傍にある土坑には、穴の入口よりも中が広がる形をしているものがあります。フラスコ状土坑、袋状土坑と呼ばれるものです。縄文時代の遺跡で多数見られるものですが、平安時代の遺跡でも本遺跡のように少数見つかることがあります。これらの土坑の中からは土師器などがみつかっています。

住居跡とは少し離れて見つかった土坑には、平面形が方形ないし長方形を呈するものなどが見られます。穴の中からは、炭化物が層状に見つかっています。また、土坑の壁や底は、土が赤く焼けた状況を示しています。これらの土坑は焼成土坑と呼ばれ、焼けた土は、何かものを作るときに火を焚いて燃やした跡が残っているものと思われる。



住居傍の土坑



焼成土坑（断面）

円形周溝

円形周溝が1基のみ見つかっています。調査区西側の端に位置しています。他の遺構に壊されている部分もありますが、浅い溝が円状に丸く巡っていたものと思われる。溝の中からは、土師器など時期を判断できるような遺物の出土は見られませんでした。また、古墳などのような、主体部は見つかりません。

この遺構の用途については、お墓と考えられているようです。

今年度の調査では、調査区はずれの位置から1基のみ見つかったのですが、あるいは今後予定している西側の調査で新たに見つかることも考えられます。



焼成土坑（上から）



円形周溝

遺物

平安時代の遺物には、土師器、須恵器、土製支脚などがあります。攪乱された土や一部の土坑を除いて大半は住居跡の覆土中で見つかっています。

土師器では、坏や皿、甕、壺、把手付き土器等が見つかっています。

坏には、底にロク口を用いて製作した際の糸切痕が残っています。内面を黒色処理しているものも見られます。なかには、器体表面に文字ないし記号が書かれた墨書土器も見つかっています。

甕には、煮炊きの痕跡と思われる炭化物が器体表面に付着しているものが見られます。また、甕の底には、ヘラナデ、砂底、網代など様々な痕跡が残っているものが見られます。

壺は、広口のものや小型のものなどが見つかっています。

把手付き土器は、手で持つ把手部分のみが見つかっています。

須恵器は、土師器に比べるとあまり見つかっていませんが、数点が破片で見つかっています。壺の口の部分などが見つかっています。



須恵器・小型の壺・把手付土器



墨書土器



平安時代の土師器・土製支脚

縄文時代の様相

土坑

土坑は、192基見つかっています。そのうち10基ほどは平安時代のものと思われるが、その他の大半は縄文時代のものと思われる。

調査区内で、南東から北西方向に、密度の差はありますが列状に並んだような分布をしています。

様々な形態のものがありますが、断面形がフラスコ状、袋状を呈し、開口部より穴の中が広がっているタイプのものが約130基と多数を占めています。次いで断面形が寸胴のピーカーのように開口部と底部がほぼ同じ大きさを呈しているものが約50基見られます。これらの土坑の平面形は、おおむね円形ないしそれに近い楕円形です。底は平坦になっていますが、真ん中ほどに浅く小さい穴が設けられているものがしばしば見られます。また、小さい穴の他、十字に溝が設けられているものも見られます。

これらの土坑の用途については、一般に食料を保存する貯蔵穴としての役割や、お墓としての役割などが考えられています。本遺跡では明確に用途を結論付けるようなものは見つかりませんが、土器と石斧などの石器が納められたような状況で見つかり、墓の可能性が高いと思われるものも見られます。

これらの形態の土坑の他には、平面形が規模の大きい長楕円形や隅丸長方形を呈するものや、平面形が楕円形、小判形で比較的浅いものが見られます。

小判形の土坑では、石槍が納められたように複数出土するものが見られます。右の写真のものは、完形に近い土器とまとめて置かれた石槍が見つかりました。石槍には赤色顔料がふりかけられたように赤く残っていました。副葬品と考えられ、お墓に使われた土坑と思われます。

これら土坑の時期は、出土する遺物からおおむね縄文時代前期の末葉と思われる。



フラスコ状土坑



袋状土坑遺物出土状況



隅丸長方形の土坑



小判形の土坑の遺物出土状況

埋設土器遺構

埋設土器遺構は、子供のお墓と考えられている遺構です。地面に掘った穴の中に土器が口の側を上に向けて納められています。4基が見つっています。いずれも調査区の北側、平坦な地形が斜面にかかり始める地点に位置しており、設ける場所が決まっていたようです。遺構の上部は削平されていました。おおむね縄文時代前期末葉の遺構と思われます。

納められている土器の中には、なぜか拳大の石が納められている例があり、本遺跡でも納められた土器の中から石が見つっています。なにか祈りや願いの表れなのでしょうか。



埋設土器遺構



出土した礫

溝状土坑

溝状土坑が14基見つっています。狩猟の際の落とし穴と考えられる遺構です。平面形は、溝のように細長くなっており深さは1～1.5m程度あります。長軸方向の両端は、口の部分より底のほうが抉れてより長くなっているようです。土坑などの他の縄文時代の遺構と比べると中にはより黒味の強い土が入っており、自然に埋まっていたものと思われます。土の中からは縄文土器の土器片が主に出土しています。

埋設土器遺構と同様に調査区の北側の斜面が始まる地点で多数が見つっており、この遺構を設ける場所にもなんらかの意識がはたらいっていたと思われます。



溝状土坑

屋外炉

調査区南側で1基だけですが火を焚いた屋外炉が見つっています。地面を浅く掘りこんだ穴の中央部に土器が埋められています。土器埋設炉と呼ばれるものです。炉の中には、埋められている土器を中心として火が燃えた痕跡が周囲の土に赤く残っています。炉に使われている土器から、縄文時代前期末葉のものと思われます。



屋外炉

遺物

縄文時代で見つっている遺物には、土器、石器があります。縄文時代の遺物は、攪乱された土から見つかった一部を除いて、土坑や溝状土坑などの遺構の中から出土しています。

土器の多くは、バケツを筒状に細長くしたような、深鉢形でシンプルな形をしています。縄を撚り合わせた縄文や、棒に縄を巻きつけた絡条体を主に口縁部には押し付けて、胴部には回転させて文様を施しています。これらの土器は縄文時代前期末葉のもので円筒下層d1式土器と呼ばれているものです。他にはごく僅かですが口縁部に粘土紐による装飾が見られるものがあります。これらは、もう少し後の縄文時代前期と中期の境目にあたる土器と思われます。また、攪乱された土からは、縄文時代後期の土器片も数点出土しています。

石器では、矢や槍の先に装着したと思われる石鏃や石槍などの狩猟の道具や、ナイフとして用いたと思われる石匙、物をすり潰したり、敲いたりする道具と思われる敲磨器、石斧などが見つかっています。

また、石鏃や石斧などには、お墓の副葬品として納めたと思われる状況で出土したものもあります。



石鏃・石槍・石匙



石斧・敲磨器



縄文時代前期の土器

ま と め

本遺跡は、青森市大字新町野字菅谷他に所在し、青森市南東部から南部に広がる火山性の台地上、丘陵の標高20～50mに位置しています。縄文時代前期と平安時代の時期を主体とする遺跡です。

今年度、当委員会では、丘陵頂部付近を主体に面積10,000㎡の発掘調査を実施しました。調査の結果、竪穴式住居跡15軒、土坑192基、埋設土器遺構4基、溝状土坑14基、屋外炉1基、円形周溝1基、柱穴状ピット191基等の遺構と、主に遺構の中から縄文時代前期の土器、平安時代の土師器、須恵器、石器等ダンボール箱で73箱分の遺物が見つっています。

縄文時代前期では、土坑、埋設土器遺構等が見つっています。

土坑は、集中的に列をなすような分布状況を呈しており、形態は断面形がフラスコ状、袋状を呈するものが約130基と大半を占めます。土坑の覆土からは、完形土器が納められたような状況で出土するものや、完形土器に加えて石器が納められているものなど、副葬品の可能性が考えられるものもあり、それらは、墓としての用途が考えられます。

子供のお墓と考えられる埋設土器遺構は、4基が北側斜面端で見つっています。これらの遺構は、出土土器などから縄文時代前期末葉のものが多いのではないかと考えられます。また、溝状遺構も、北側の斜面で多くが見つっています。

平安時代では、竪穴式住居跡、土坑、円形周溝等が見つっています。

竪穴式住居跡は、調査区全体に散発的に分布している印象を受けます。小型のものや大型のものなどありますが、かまどについては、2軒を除いて東側に有している点が共通しています。また、建物の部材が炭化した状態で確認できるものもあります。

円形周溝は、調査区西側で1基が見つっています。主体部は見つっていない。

本遺跡は広大な範囲にわたり、別地点ではこれまで、中核工業団地造成工事や防災調整池造成工事、市道建設工事などに係る発掘調査が実施されており、多数の遺構が検出されています。当委員会が実施及び実施を予定している調査区域は、以前に別の発掘調査が実施された区域の中間にあたる位置に相当することから、今後の調査でより本遺跡の性格が明らかになるものと考えられます。



作業風景

既刊埋蔵文化財関係報告書一覧

青森市の文化財 1	1962	『三内霊園遺跡調査概報』	青森市埋蔵文化財調査報告書	第 39 集	1998	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
” 2	1965	『四ツ石遺跡調査概報』	”	第 40 集	1998	『小牧野遺跡発掘調査報告書』
” 3	1967	『玉清水遺跡調査概報』	”	第 41 集	1998	『野木遺跡発掘調査概報』
” 4	1970	『三内丸山遺跡調査概報』	”	第 42 集	1998	『熊沢遺跡発掘調査概報』
” 5	1971	『野木和遺跡調査報告書』	”	第 43 集	1999	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
” 6	1971	『玉清水 遺跡発掘調査報告書』	”	第 44 集	1999	『葛野(2)遺跡発掘調査報告書』
” 7	1971	『大浦遺跡調査報告書』	”	第 45 集	1999	『小牧野遺跡発掘調査報告書』
” 8	1973	『孫内遺跡発掘調査報告書』	”	第 46 集	1999	『新町野・野木遺跡発掘調査概報』
	1979	『蚩沢遺跡』	”	第 47 集	1999	『稲山遺跡発掘調査概報』
	1983	『四戸橋遺跡調査報告書』	”	第 48 集	2000	『熊沢遺跡発掘調査報告書』
青森市の埋蔵文化財	1983	『山野峠遺跡』	”	第 49 集	2000	『稲山遺跡発掘調査概報』
”	1985	『長森遺跡発掘調査報告書』	”	第 50 集	2000	『小牧野遺跡発掘調査報告書』
”	1986	『田茂木野遺跡発掘調査報告書』	”	第 51 集	2000	『桜峯(1)・雲谷山吹(3)遺跡発掘調査報告書』
”	1987	『横内城跡発掘調査報告書』	”	第 52 集	2000	『大矢沢野田(1)遺跡調査報告書』
”	1988	『三内丸山 遺跡発掘調査報告書』	”	第 53 集	2000	『市内遺跡発掘調査報告書』
青森市埋蔵文化財調査報告書			”	第 54 集	2001	『新町野遺跡発掘調査報告書』
” 第 16 集	1991	『山吹(1)遺跡発掘調査報告書』				『野木遺跡発掘調査報告書』
” 第 17 集	1992	『埋蔵文化財出土遺物調査報告書』	”	第 55 集	2001	『小牧野遺跡発掘調査報告書』
” 第 18 集	1993	『三内丸山(2)遺跡発掘調査概報』	”	第 56 集	2001	『稲山遺跡発掘調査報告書』
” 第 19 集	1993	『市内遺跡発掘調査報告書』	”	第 57 集	2001	『稲山遺跡発掘調査概報』
” 第 20 集	1993	『小牧野遺跡発掘調査概報』	”	第 58 集	2001	『大矢沢野田(1)遺跡発掘調査概報』
” 第 21 集	1994	『市内遺跡詳細分布調査報告書』	”	第 59 集	2001	『市内遺跡発掘調査報告書』
” 第 22 集	1994	『小三内遺跡発掘調査報告書』	”	第 60 集	2002	『小牧野遺跡発掘調査報告書』
” 第 23 集	1994	『三内丸山(2)・小三内遺跡発掘調査報告書』	”	第 61 集	2002	『大矢沢野田(1)遺跡発掘調査報告書』
” 第 24 集	1995	『横内遺跡・横内(2)遺跡発掘調査報告書』	”	第 62 集	2002	『稲山遺跡発掘調査報告書』
” 第 25 集	1995	『市内遺跡詳細分布調査報告書』	”	第 63 集	2002	『稲山遺跡発掘調査概報』
” 第 26 集	1995	『桜峯(2)遺跡発掘調査報告書』	”	第 64 集	2002	『市内遺跡発掘調査報告書』
” 第 27 集	1996	『桜峯(1)遺跡発掘調査概報』	”	第 65 集	2003	『雲谷山吹(4)~(7)遺跡発掘調査報告書』
” 第 28 集	1996	『三内丸山(2)遺跡発掘調査報告書』	”	第 66 集	2003	『稲山遺跡発掘調査報告書』
” 第 29 集	1996	『市内遺跡詳細分布調査報告書』	”	第 67 集	2003	『深沢(3)遺跡発掘調査報告書』
” 第 30 集	1996	『小牧野遺跡発掘調査報告書』	”	第 68 集	2003	『近野遺跡発掘調査報告書』
” 第 31 集	1997	『市内遺跡詳細分布調査報告書』	”	第 69 集	2003	『市内遺跡発掘調査報告書 11』
” 第 32 集	1997	『桜峯(1)遺跡発掘調査概報』	”	第 70 集	2003	『小牧野遺跡発掘調査報告書』
” 第 33 集	1997	『新町野遺跡試掘調査報告書』	”	第 71 集	2004	『稲山遺跡発掘調査報告書』
” 第 34 集	1997	『葛野(2)遺跡発掘調査報告書』	”	第 72 集	2004	『稲山遺跡発掘調査報告書』
” 第 35 集	1997	『小牧野遺跡発掘調査報告書』	”	第 73 集	2004	『新町野遺跡発掘調査概報』
” 第 36 集	1998	『桜峯(1)遺跡発掘調査報告書』	”	第 74 集	2004	『市内遺跡発掘調査報告書 12』
” 第 37 集	1998	『新町野遺跡発掘調査報告書』	”	第 75 集	2004	『江渡遺跡発掘調査報告書』
” 第 38 集	1998	『野木遺跡発掘調査報告書』				

報告書抄録

ふりがな	しんまちのせきはつくつちょうさがいほう
書名	新町野遺跡発掘調査概報
副書名	
巻次	
シリーズ名	青森市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第73集
編著者名	小野貴之
編集機関	青森市教育委員会
所在地	〒030-8555 青森県青森市中央一丁目22-5 TEL 017-734-1111
発行年月日	西暦2004年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測値系		調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
しん 新 まち 町 の 野	おおもりしおおあざ 青森市大字 しんまちのあざすがや 新町野字菅谷ほか	02201	161	40° 46 03	140° 44 58	20030625 ~ 20031121	10,000	新幹線建設工事に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
しん 新 まち 町 の 野	集落跡	縄 平 文 安	竪穴式住居跡 15軒 土坑 192基 埋設土器遺構 4基 溝状土坑 14基 屋外炉 1基 円形周溝 1基 柱穴状ピット 191基	土 須 縄 石 師 恵 文 士 器 器 器	

青森市埋蔵文化財調査報告書 第73集

新町野遺跡発掘調査概報

発行年月日 平成16年3月31日

発行 青森市教育委員会

〒030-8555 青森市中央一丁目22-5

TEL 017-734-1111

印刷 青森オフセット印刷株式会社

〒030-0802 青森市本町二丁目11-16

TEL 017-775-1431